

一般社団法人 栃木県若年者支援機構

平成26年度 事業報告書

平成26年4月1日 ～ 平成27年3月31日

一般社団法人 栃木県若年者支援機構

～ 若者たちに働く機会と環境を ～

平成26年度の歩み

平成26年度の主なトピックス

- ① とちぎ若者サポートステーションにおいて、サポステ卒業者に対して、早期退職防止を目的とする定着支援や非正規雇用から正規雇用への就職支援等を行う「サポステ卒業者ステップアップ支援事業」が始まりました。
- ② 「栃木県子ども若者・ひきこもり総合相談センター」の受託運営が決定し、10月より開所しました。
- ③ 生活困窮者支援事業関連で6月から宇都宮市の、9月から栃木県の「生活困窮者自立支援モデル事業(学習支援)」が始まりました。
- ④ 昨年度にも増して、「中間的就労」に対する注目度が高まっており、ユニバーサルデザインジョブ事業に関する視察・講演依頼を数多くいただきました。
- ⑤ 発達障害の子どもたちのための学習塾ANDANTEでは、今夏より希望者に対して夏期特別講習を実施しました。

平成26年度事業

- ① とちぎ若者サポートステーション運営(厚生労働省認定事業)
- ② サポステ卒業者ステップアップ支援事業
- ③ サポステ若年無業者集中訓練プログラム
- ④ ユニバーサルデザインジョブ事業
- ⑤ 御用聞き事業
- ⑥ 便利屋事業
- ⑦ 発達障害児・者向け学習塾「ANDANTEーあんだんてー」運営
- ⑧ 宇都宮市 生活困窮者自立支援モデル事業(学習支援等)
- ⑨ 栃木県 生活困窮者自立支援モデル事業(学習支援等)
- ⑩ 栃木県子ども若者・ひきこもり総合相談センター運営
- ⑪ 健康長寿推進条例施行イベント事業

※プロポーザルへの応募を予定していた「栃木県 生活困窮者自立支援モデル事業(就労準備支援)」及び「栃木県 中間的就労企業開拓」については、プロポーザルの情報公開が予定より大幅に遅れたことや事業内容を精査した結果、応募しない方針としました。

【その他項目】

- ① 寄付キャンペーンの実施
- ② 若者の自立・就労支援保護者相談会
- ③ 機構全体会にて就労した卒業生たちの現在の状況を記録したビデオ上映会を実施

次ページ以降、各事業の報告をいたします。

事業1. とちぎ若者サポートステーション【本体事業】

とちぎ若者サポートステーションは、相談を主とする【本体事業】、就労後のアフターフォローを実施する【サポステ卒業者ステップアップ事業】、3か月間集中的にトレーニングを行い就労への準備を行う【若年無業者等集中訓練プログラム】の3事業を実施している。

以下、それぞれの事業について報告を行う。

【本体事業】

近年、サポートステーションは、厚生労働省の指導のもと、より就労に近い若者を支援していく機関としての役割を求められてきた。その流れのなかで、とちぎサポステも従来の“受け皿”としての役割から“就労”への方針転換を迫られていたわけだが、このたび昨年度10月に「子ども若者・ひきこもり総合相談センター ポラリスとちぎ」が開所したことにより、ようやく就労へ特化する役割へと移行しつつある。

具体的には、ひきこもりの子をもつ保護者からの問い合わせや本人からの問い合わせでも本人の希望が就労以外の場合などの際、インテークを行う前の段階でポラリスとちぎにリファーすることで、サポステでは“就労を軸としてそれに伴う周辺の悩みの相談”に特化することが可能となり、就労に近い利用者、あと一歩が踏み出せないでいる利用者により手厚い支援を行うことが可能となった。

それに伴って、プログラム内容も見直しを行い、特に「イベントプログラム」において、従来の“居場所”の役割をもっていたプログラムを“人間関係を学びながらお互いが刺激をしい自立へ向けた意欲を高めていく学びの場”へと利用者話し合いをしながら移行したことも昨年度のサポステにとっての大きな変化である。

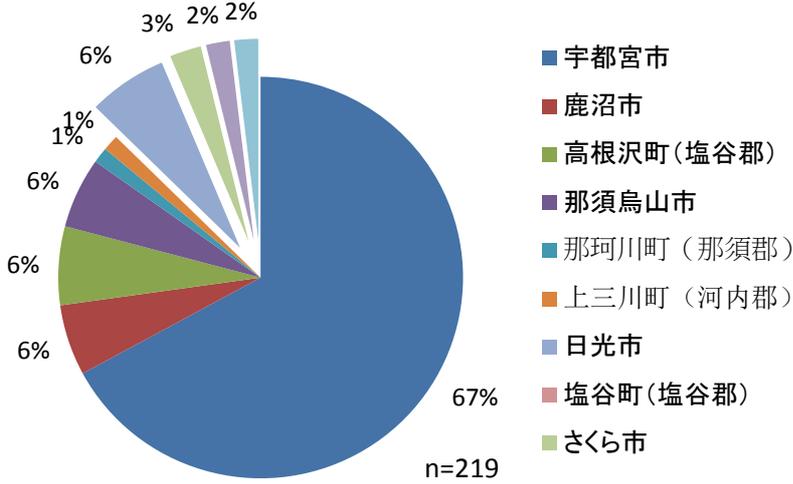
とちぎサポステとしての転換期の中で、課題は山積しているものの、一方でスタッフの意識も徐々に変化し、自己研鑽や新しいプログラムの提案など、スタッフ個々人の新たな活動も始まっている。今年度も引き続き、ポラリスとちぎやしごとやなどの機構内組織、ハローワークやジョブカフェなど外部組織と連携を図っていきながら、若者の職業的自立に向けた支援を実施していく。

平成26年度本体事業実績

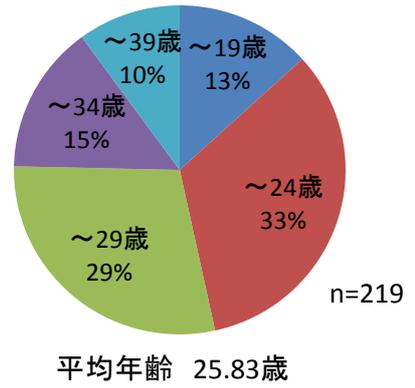
H.26年度	相談件数	来所のべ数	新規受付数	進路決定数	イベント参加数
4.5.6	1527	1720	62	42	898
7.8.9	1433	1846	55	64	764
10.11.12	1202	1936	39	44	832
1.2.3	1191	1717	63	36	882
合計	5353	7219	219	186	3376

平成26年度新規受付者数データ一覧

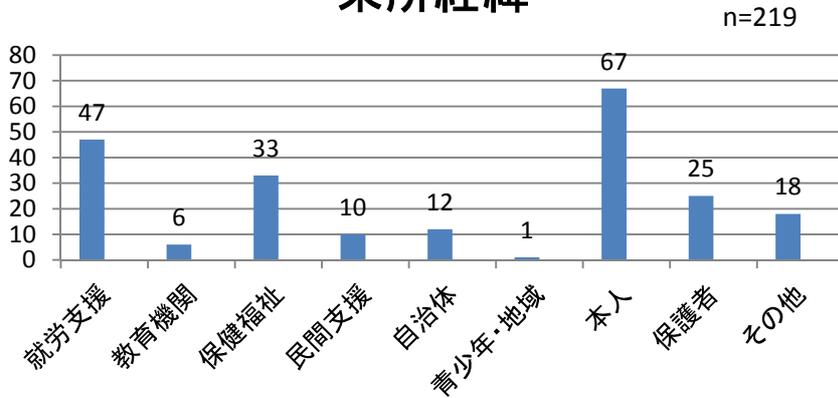
新規登録者および再登録者数



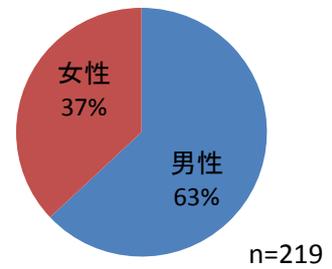
来所時年齢



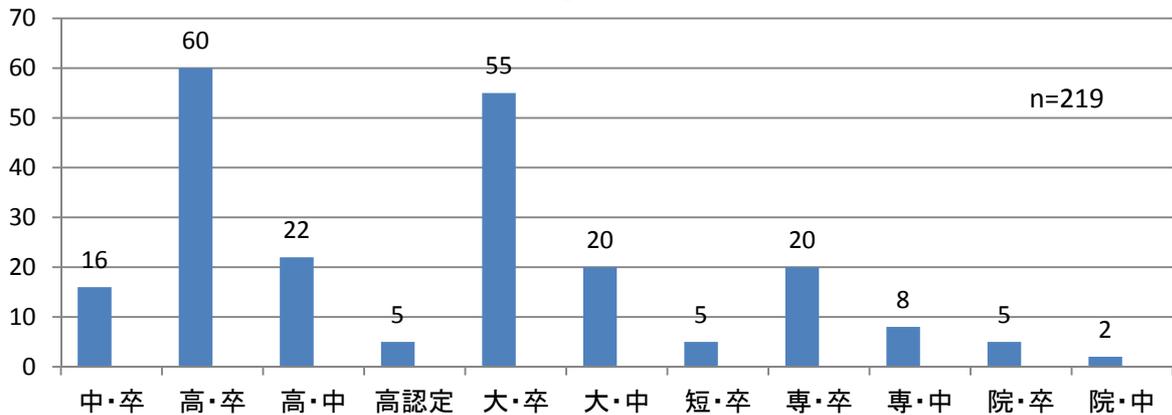
来所経緯



男女比



学歴



事業2. とちぎ若者サポートステーション【ステップアップ事業】

【サポステ卒業者ステップアップ事業】

サポステ卒業者ステップアップ事業は、サポステの支援を受けて就職した者を対象として実施する事業であり、就職後も一定のフォロー・支援さえあれば職場定着および本人のキャリアアップが望める者が少なからずいることを踏まえたうえで、①継続的な支援を実施しその職場での定着を支援する、②キャリアアップを図ることができる者に対しては中長期的なキャリア形成を支援する、ことを目的として平成26年度より実施している。

支援内容としては、就職後の職場定着・キャリアアップ支援（個別面談形式）、利用者同士の交流を目的としてイベントプログラムの実施、卒業者の状況把握をおこなっている。

事業開始より1年が経過したことで、卒業者の就職後の様子や本事業の成果が徐々にみえてきた。以下、図を交えながら報告する。

【本事業による効果】

次ページ以降の図は、上から就職後1ヶ月目の就業状況、3か月目の就業状況、6か月目の就業状況、12か月目の就業状況となっており、それぞれページ左半分が本事業開始前のH25年度卒業者のグラフ、右半分が本事業開始後のH26年度卒業者のグラフとなっている。

なお、“H25年度1か月目の状況”は集計データが無くグラフ化することはできず、また、“H25年度3か月目”および“H26年度12か月”についてはサンプル数が少ないためあくまでも参考値として掲載することをあらかじめご理解いただきたい。

さて、事業開始前後での卒業者の状況であるが、同時期の左右のグラフを比較すると、いずれの時期もH26年度のほうが「同一雇用主のもとでの就労」の割合が多くなっていることがわかる。H25年度の卒業者には十分な状況確認がとれず「不明」も多いが、仮にこれら「不明」がすべて「同一雇用主のもとでの就労」だったとしても、それでもH26年度のほうが多い状況であることから、本事業による定着支援は一定の成果があると言える。

また、定着率が上がったことにより、転職者の数が下がっていることも確認できる。これは、従来は“仕事上での悩み→相談相手がいない→離職→転職する”という流れであったものが、本事業により“仕事上での悩み→サポステで相談→現職に踏みとどまる”という流れに変わり、結果として転職率の低下につながっているものと推測される。

【総評】

グラフによる可視化を行ったことで本事業の有意性が改めて確認できた。

就労後にも相談できる相手・足を運ぶことができる機関があるなしでは、これほど顕著に差が表れるということには驚きがあるが、客観的に振り返れば、そもそもサポステに仕事の相談に来る段階で多くの若者は、周囲に相談できる人を持っておらず一人で抱え込んでいる状況にあるからサポステのような支援機関に相談に訪れるわけで、そうした若者に“就職できたから支援終了”としたところでそれは結局もとの状態に戻るだけで、その状態で仕事に定着することが難しいのは想像に難くない。

したがってH.27年度も、本体事業のみならず本事業についても力を入れ、卒業者の職場定着を支援するとともに、昨年度1年間定着した若者が今度は自身のキャリアアップのために活動する際の相談相手としても支援できるよう取り組んでいきたい。

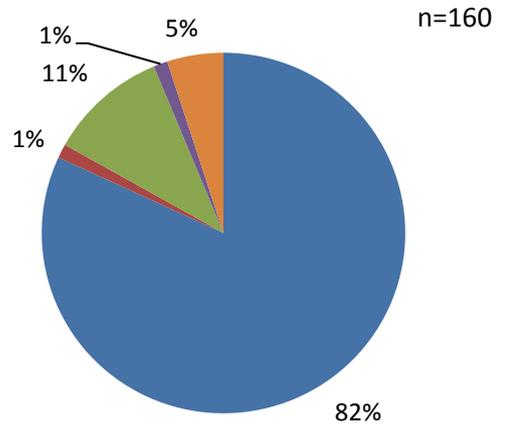
ステップアップ事業 前
(H25年度)

ステップアップ事業 後
(H26年度)

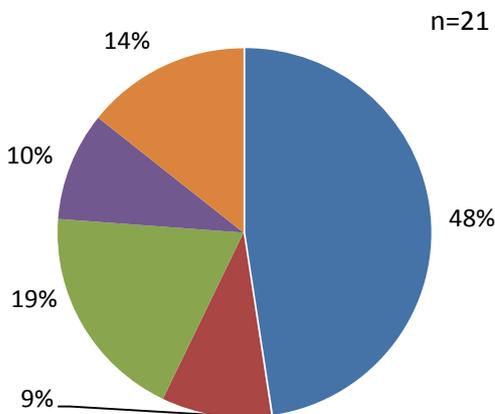
H25年度 就労後1ヵ月



H26年度 就労後1ヵ月

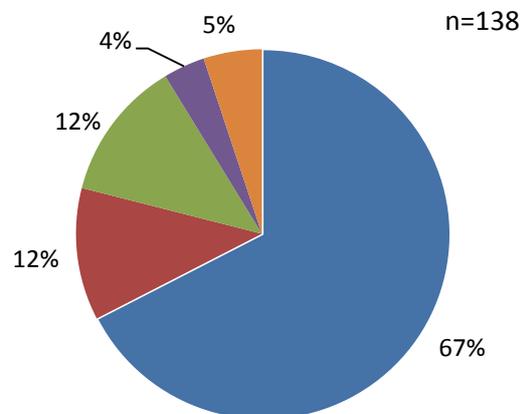


H25年度 就労後3ヵ月



【サンプル数が少ないため参考値】

H26年度 就労後3ヵ月

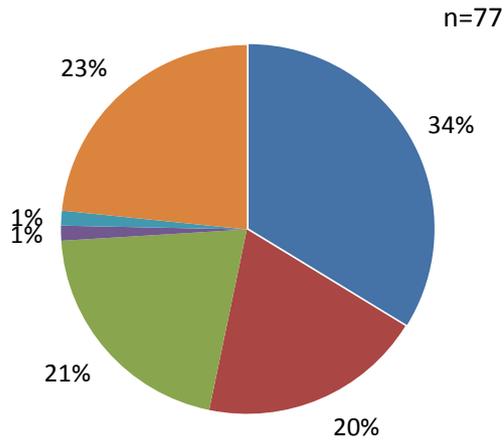


- 同一の雇用主のもとで就労している
- 転職して他職場にて就労している
- 求職中
- その他(資格取得のための通学等)
- 何もしない状態になる
- 不明

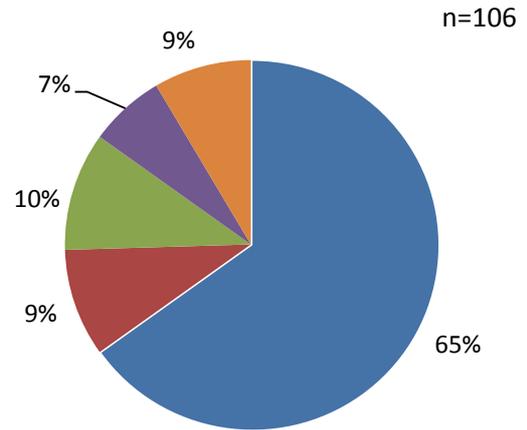
ステップアップ事業 前
(H25年度)

ステップアップ事業 後
(H26年度)

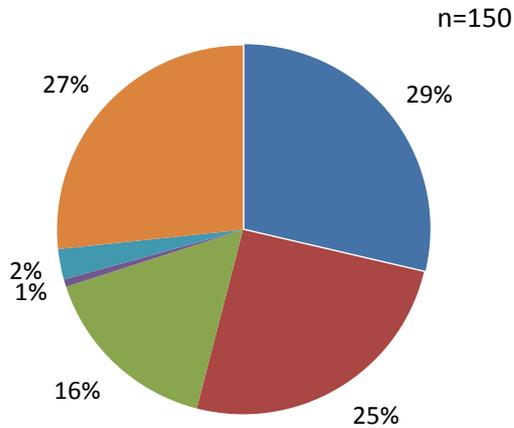
H25年度 就労後6カ月



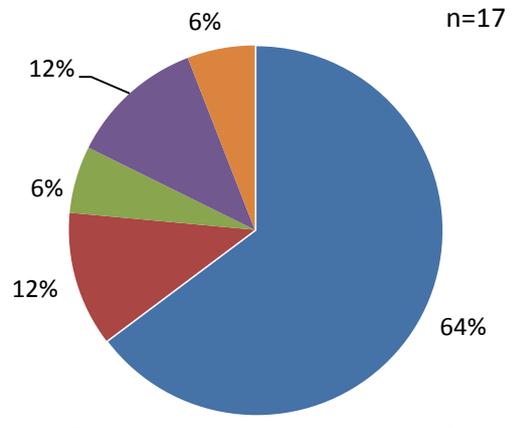
H26年度 就労後6カ月



H25年度 就労後12カ月



H26年度 就労後12カ月



【サンプル数が少ないため参考値】

- 同一の雇用主のもとで就労している
- 転職して他職場にて就労している
- 求職中
- その他(資格取得のための通学等)
- 何もしない状態になる
- 不明

事業3. とちぎ若者サポートステーション【集中訓練事業】

【若年無業者等集中訓練プログラム】

若者に対し、4泊5日の合宿期間を含めた生活面等のサポートを行いながら、3か月間、集中的にビジネスマナー・グループワーク・職場実習等を実施し、本人の自信回復、就職に必要な基礎的な能力の獲得を図り、就労に結びつけることを目的とする。

プログラム修了6ヶ月時点までの就職等進路決定率6割以上が努力目標となっている。

【昨年度の実績】

- 第3期 [平成26年9月8日～平成26年12月5日]
参加者6名（男性5名、女性1名）
就職等進路決定者3名（正社員1名、パート1名、職業訓練1名）
(平成27年4月30日現在)
- 第4期 [平成27年1月13日～平成27年4月10日]
参加者4名（男性3名、女性1名）
就職等進路決定者2名（正社員1名、職業訓練1名）
(平成27年4月30日現在)

【参加者の声】

- 初めはどんなことをするのかわからなかったもので、行くと決めたのに不安がたくさんありました。でも集中訓練に参加してみて、明るくなれたし、元の自分に戻れたような気がしました。本当にあの時勇気を出して参加を決意してよかったです(30代女性)
- 今までの自分は焦ったり悩んだりしてもまず自分で解決しようとして周囲に弱音を吐こうとしなかった。しかしそれが結果的により大きなストレスとして自分に返ってきて、結果として体調を崩すこととなってしまった。しかし今では自分がつらいと感じたことはあまり溜め込まないように心掛け、親しい相手にちょっとずつこぼすようにしている。それによって自分も楽になったし、また相手にも「相談されるようになって安心した」と言ってもらえるようになり気持ちが救われた。これもきっと集中訓練に参加していなければ聞くことができなかった言葉だと思う(30代男性)
- とても充実した内容でした。この経験を経て、最初自分の中にあった”自分は本当に必要とされているのか”、”自分はもう一度やり直すことができるのか”という不安が以前と比べて小さくなりました。まだなくなったわけではありませんが、自分が良い人生を送れるように少しつらいことにも何とか立ち向かいながら頑張っていけたらいいなと思います(20代男性)

【総評】

合宿・職場研修・就労に不安を持ったまま参加する若者がほとんどであるが、プログラムが進行していく中で、それらが徐々に楽しみ・経験へ変わっていく様子が、参加者の表情や発言などから感じられる。

3か月間一緒に活動することで、参加者間の中に連帯感・仲間意識が生まれ、できない人を自主的にフォローしあう姿も見られるなど、社会性を育むという点では非常に有効なプログラムである。

とはいえ、3ヶ月で参加者の意欲が180度変化するわけではなく、特に就労に対する不安はなかなか払拭することは難しいようで、就労を前面に押し出して運営をするとプレッシャーを感じ怖気づいてしまう若者が多い印象である。

したがって、集中訓練の3か月間で就労に至ることを絶対とせず運営をし、その後個別面談を含めたフォローアップで訓練のことを振り返りながら自己肯定感を高め自信をつけてから、本人のペースで一步踏み出していく形式が、若者にとっては理想的な流れであるのかもしれない。

H.27年度は、第5期(平成27年7月1日～)を皮切りに計3回実施予定である。昨年度の経験を活かしながら、参加者が自然と前向きな未来に一步踏み出せるような訓練体系を構築していきたい。

事業4. ユニバーサルデザインジョブ事業①

上半期は、昨年から引き続き、栃木陸送株式会社様での中古車クリーニングの現場を中核としつつ、下都賀農業公社様からご紹介いただいたぶどう農家様や鈴木建工様など、新規の農家・企業も増えました。特に夏場には例年通り、1日3現場という活動頻度となりました。また、「中間的就労」の注目度が各地で高まっており、各自治体や県内外の団体から、視察や講演の依頼を例年より多数受けました。

下半期に入り、夏場の忙しい時に比べて現場数が減少し、登録生の参加頻度も一時落ちました(特に1・2月)。それを受けて、事業担当者が飛び込みで営業を敢行し、2件のレギュラーの現場を獲得しました。そのうちの1件である株式会社国際資源リサイクルセンター様での作業は3月よりスタートしました。もう1件の株式会社ヌマニューウイースト様の作業も平成27年度よりスタートします。

登録生のリファー元として主にサポステからのケースが多数を占めていましたが、ポラリスの開所に伴い、4名の方がポラリスから登録しました。

研修先としてお世話になっている栃木陸送株式会社様に2名就労したほか、店舗清掃会社・百貨店・小売店舗・工場などに15名の若者が就労しました。

平成26年度実績

★登録している若者の数	54 人 (男性 46人、女性 8人)
★現場で訓練した若者の数	延べ 1, 179 人
★現場の件数	延べ 400 件
★協力企業、団体、個人の数	19 件
★就労に結びついた登録者数	15 人



栃木市にてぶどう園の作業



愛知県知多市での若者支援フォーラム参加

事業4. ユニバーサルデザインジョブ事業②



THE BIG ISSUE JAPAN 掲載記事



佐世保からの視察(栃木陸送様の現場にて)



栃木陸送様での作業



今年度栃木陸送様に就職した卒業生



国際資源リサイクルセンター様外観



国際資源リサイクルセンター様での作業

事業5. 御用聞き事業

平成26年度実績

★作業に参加した若者の数	延べ	48人
★現場の件数	延べ	28件
★ご注文いただいた御宅		13件
★ご注文の内容		
・庭の除草作業 ・庭木の剪定 ・家具の移動、組立 etc.		

事業6. 便利屋事業

平成26年度実績

★作業に参加した若者の数	延べ	128人
★現場の件数	延べ	108件
★ご注文いただいたお客様		30件
★ご注文の内容		
・除草作業 ・除草剤散布 ・植木消毒 ・アパート清掃、修繕 ・庭木の枝落とし ・引越 ・片付け ・網戸張替え エアコン清掃 etc.		

御用聞き・便利屋ともに夏場の草刈作業が今年も多く入ってきました。

リピーターのお客様とともに、「〇〇さんから紹介してもらって…」という問い合わせも来るようになりました。

便利屋事業については新しいチラシの配布やホームページの情報改定しました。今年度の売り上げ目標額の達成には至りませんでした。作業受注の際に「ホームページ（あるいはチラシ）を見て電話しているのですが…」ということをお客様からお聞きするので、この効果をH.27年度に持越し、自主事業の収入構造強化を図っていきます。

事業7. 発達障害等学びに困難を抱える子ども・若者の学習塾「ANDANTE」運営

2012年に開校したANDANTEだが3年目に入り、一応の定着と安定性は保たれていると思います。マンツーマンによる講師の個別対応と、臨床心理士による入塾時の保護者面談、wisk等の心理検査による指導へのフィードバック、個別面談等が功を奏していると考えられます。

新規入塾生8名は病院や学校のスクールカウンセラーからの紹介だったので、少しずつですがANDANTEの知名度も浸透していると考えられます。

課題としては、講師とも会議の中で個々に課題を提出してもらい、全体会議で話し合いを重ねて反映しています。

①土曜日はニーズが高いがこれ以上生徒を増やせない状況にある。

講師の人数が限られているので指導スペースに限界がある。

→レイアウトを変えることで対応することにしました。学習スペースを4か所にし、講師も1名増員しました。

③子どもへの個別面談をもっと実施してもらうことで指導に反映したい。

→臨床心理士(原口さん)に対応してもらうことにし、課題の多い生徒や保護者に対応していただいています。

【平成26年度ANDANTEの生徒数】

生徒・・・37名(小学生=5名、中1=7名、中2=8名、中3=13名、高校=4名)

講師・・・5名

臨床心理士・・・2名



ANDANTE外観



授業風景

事業8. 宇都宮市 生活困窮者自立支援モデル事業(学習支援等)

一昨年末に国会で制定された生活困窮者自立支援事業の一環として事業化となった生活保護受給家庭の子どもへの学習支援事業のモデル事業として4月にプロポーザルが発表されました。5月末には受託が決定し、6月から準備開始、6月末の開校となりました。教室参加生徒は以下の通りです。

【宇都宮市学習支援教室】

通学生徒・・・40名(中1=10名、中2=10名、中3=20名)

通信添削・・・15名(中1=2名、中2=4名、中3=9名)

＜継続生徒→通学生徒33名、通信添削11名＞

講師・・・非常勤講師10名

ボランティア5名

＜生徒の様子＞

宇都宮市の場合、生活保護受給世帯のみに絞ったこともあり、経済的に厳しく学習塾に通えない生徒が目立ちました。その中でも学習面のみの厳しさだけでなく、困難要因がいくつも、見えた事業でした。

- ・学習面の厳しさ・・・発達障害のグレーゾーンの生徒が1割近くいました。漢字が小学生レベル、計算もままならない生徒への指導はマンツーマン指導が必要となりました。
- ・不登校傾向・・・不登校生徒が約1割の5名、不登校傾向が4名の2割強が不登校傾向でした。3名は中学校担任、学年主任と連携し進学に繋がりました。
- ・家庭内の厳しさ・・・家庭内で学習環境が整っていない生徒が多くいました。また、ネグレクトがわかった生徒が1名おり、中央児相と連携しました。

＜平成26年度結果＞

中学3年生進学率96%

県内7市町 モデル事業

子ども 貧困

宇都宮市は定員超え

学習支援やる気後押し

夏休みにあつたあ、宇都宮市は、約40名の定員を超過し、約50名の生徒が参加した。宇都宮市は、生活保護受給家庭の子どもへの学習支援事業のモデル事業として、4月にプロポーザルを発表した。5月末には受託が決定し、6月から準備開始、6月末の開校となった。教室参加生徒は以下の通りです。

通学生徒・・・40名(中1=10名、中2=10名、中3=20名)

通信添削・・・15名(中1=2名、中2=4名、中3=9名)

＜継続生徒→通学生徒33名、通信添削11名＞

講師・・・非常勤講師10名

ボランティア5名

宇都宮市は、生活保護受給世帯のみに絞ったこともあり、経済的に厳しく学習塾に通えない生徒が目立ちました。その中でも学習面のみの厳しさだけでなく、困難要因がいくつも、見えた事業でした。

・学習面の厳しさ・・・発達障害のグレーゾーンの生徒が1割近くいました。漢字が小学生レベル、計算もままならない生徒への指導はマンツーマン指導が必要となりました。

・不登校傾向・・・不登校生徒が約1割の5名、不登校傾向が4名の2割強が不登校傾向でした。3名は中学校担任、学年主任と連携し進学に繋がりました。

・家庭内の厳しさ・・・家庭内で学習環境が整っていない生徒が多くいました。また、ネグレクトがわかった生徒が1名おり、中央児相と連携しました。

＜平成26年度結果＞

中学3年生進学率96%

2014.8.13.付 下野新聞

事業9. 栃木県 生活困窮者自立支援モデル事業(学習支援等)

宇都宮市同様、生活困窮者自立支援事業の一環として事業化となった生活困窮家庭の子どもへの学習支援事業のモデル事業として7月にプロポーザルが発表され8月に受託が決定し、9月から準備開始、10月からの開校となりました。教室参加生徒は以下の通りです。

【高根沢町学びの教室】 通学生徒・・・5名

【壬生町学びの教室】 通学生徒・・・12名(壬生町) 9名(南犬飼町)

【那珂川町学びの教室】 通学生徒・・・5名(小川町) 5名(馬頭町)

【那須町学びの教室】 通学生徒・・・11名

[学習支援状況]

栃木県では4町の実施となりましたが、基本的に地域のNPOの方や退職教員OBにその運営をお願いしました。「地域の支援は地域の方に」の考え方を県の方にもご理解いただきました。どの教室も熱心に子ども達が学習している様子が報告されていました。

【受験生結果報告】

	中3の人数	県立高校(a)	私立高校(b)	合計(a+b)	就職者数	その他
壬生町	8	6	2	8	0	0
高根沢町	1	1	0	1	0	0
那須町	8	8	0	8	0	0
那珂川町	3	2	1	3	0	0

以上、平成26年度の栃木県学習支援事業の高校進学率は100%でした。



事業10. 栃木県子ども若者・ひきこもり総合相談センター運営

栃木県子ども若者・ひきこもり総合相談センターの運営受託が決定し、9月から開所準備(人員体制の整備、設備の準備、スタッフ研修、開所あいさつ回り、広報活動など)を進めてきました。

公募により愛称が「ポラリス☆とちぎ」となり、10月1日より開所し、栃木県全域全体を対象として子ども・若者・ひきこもりに関する相談を様々な形式(来所相談、電話相談、メール相談、訪問相談など)で対応しています。



ポラリス☆とちぎ外観



事務所内

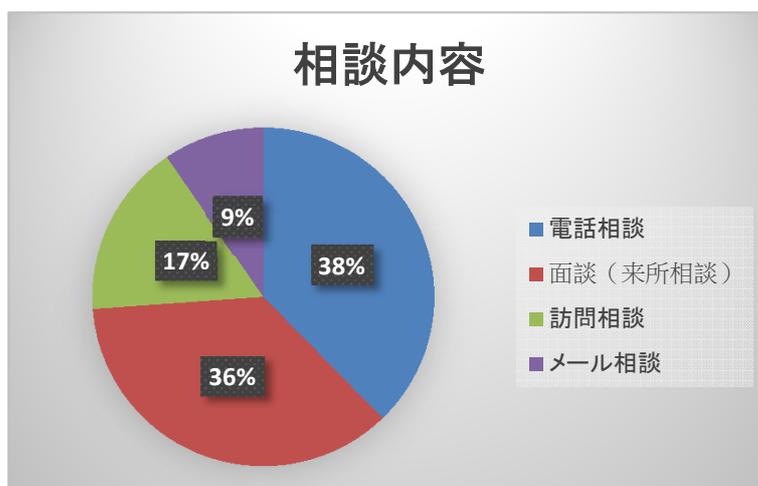
【相談以外の事業】

- (1) 県民の理解を促進するための講演会
平成26年12月6日 午後1時30分～3時30分参加者数:101名
講師:NPOスチューデント・サポート・フェイス 代表理事 谷口 仁史
- (2) 家族等支援のためのセミナー
〈第1回〉平成26年11月8日 参加者数:20名
〈第2回〉平成27年1月17日 参加者:11名
〈第3回〉平成27年3月14日 参加者:15名
- (3) 子ども・若者支援地域協議会事務局運営業務
〈設立総会〉平成26年10月2日
〈第2回〉平成27年2月10日
- (4) 市町職員向け研修会
平成26年11月25日 参加者:20市町39名 栃木県3名
- (5) ひきこもりサポーター養成研修業務
〈第1日目〉平成27年2月24日
〈第2日目〉平成27年2月25日
受講者:18市町30名

ポリス☆とちぎ平成26年度活動実績

《相談件数》

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
稼働日(日)	23	21	19	20	19	20	122
相談件数(件)	228	156	180	192	161	174	1091
当事者数(新規・人)	128	51	39	54	38	54	364
継続(件)	100	105	141	138	123	120	727
1日当たり(件)	9.9	7.4	9.4	9.6	8.4	8.7	8.9
相談内容							
電話相談	102	52	76	70	45	66	411
面談(来所相談)	67	61	50	75	71	70	394
訪問相談	37	28	35	31	33	18	182
メール相談	22	15	19	16	12	20	104



カテゴリー(主訴)別人数

カテゴリー	人数
ひきこもり	365
ニート	74
不登校	159
いじめ	4
就学	37
就労	169
生活(生保等)	41
親子関係	72
恋愛	1
その他	43
発達障害(疑い含む)	41
精神疾患(疑い含む)	72
自傷行為	9
その他疾病等	4
計	1091

《年齢構成新規当事者数》(人)

年齢区分	人数
～14	37
15～17	45
18～19	30
20～29	116
30～39	80
40～49	19
50～59	5
60～69	3
70～	0
不明	29
計	364

男231:女123:不明10

事業11. 健康長寿推進条例施行イベント事業

A. 健康長寿推進条例施行イベント

- 日 時 平成26年5月18日
会 場 栃木県総合文化センターメインホール
プログラム ・基調講演(とちぎリハビリテーションセンター所長 星野雄一氏)
・トークショー
(オトワレストランシェフ音羽和紀氏 × マラソンランナー市橋有理氏)
・街中ウォーキング
来場者数 約 600 人



会場ロビーの様子



街中ウォーキング(県庁前)

B. 健康長寿推進条例ミニイベント

- 実施会場 道の駅ろまんちっく村・道の駅どまんなかたぬま(佐野市)・道の駅しもつけ
・道の駅思川(小山市)・まちの駅 新鹿沼宿 など
プログラム ・無料健康チェックコーナー(血圧測定・骨密度検査)
・野菜350グラム測定ゲーム
・広告ポケットティッシュ配り



ろまんちっく村にて



とちまるくんにはスタッフが入りました



卒業生によるトークライブ

パネラー4人には様々な支援を受ける前の気持ちや苦しい時期の周囲に対する心境などを語っていただきました。

第2部の個別相談会では、希望された保護者の皆様が生ごとや・サポステ・ポラリスの各相談担当者と面談を行いました。そのうち数名の方が、引き続きサポステやポラリスの相談支援を継続して受けることとなったり、お子さんご本人への支援へたどり着けるケースを作ることができました。

その他3. 機構全体会の実施

平成27年1月13日(火)に機構各事業部スタッフ・会員等が一堂に会する機構全体会を実施しました。

栃木県子ども若者・ひきこもり総合相談センター(ポラリス)の受託など、新しい事業部の立ち上げと取組内容の細分化の状況を受けて、機構全体のビジョンや方向性の確認と各ブロックの取組内容の把握を主な目的として行われました。

また、予てよりサポステの非常勤相談員の皆様から、「しごとやのユニバーサル事業の訓練へ進んで行った若者たちのその後の成長の様子が知りたい」というご要望を受けており、それにお答えする形で現在しごとやユニバーサル訓練で頑張る若者と現在は就労して頑張っている若者の様子を記録したビデオ上映会を行いました。



各ブロック内容説明



ビデオより抜粋 現在は就労して頑張る若者

一般社団法人栃木県若年者支援機構

平成26年度 事業報告書

発行 一般社団法人栃木県若年者支援機構
住所 栃木県宇都宮市昭和2-7-5
電話 028-678-474 FAX 028-678-4746
E-mail info@tochigi-yso.org
URL www.tochigi-yso.org

